

# パンタナル通信

南北米福地開発協会

会報

2011年10月1日

97号

第十一回国際協力青年奉仕隊  
(八月二十四日—九月九日) 報告特集号



ルゴ パラグアイ大統領を表敬訪問

日程の最終日、ルゴ パラグアイ大統領を表敬訪問し、活動の報告をする事が出来ました。

「大統領への表敬訪問は午前8時半から9時まで行われました。昨夜から中井さんと柴沼で大統領に見て頂く、ファイルの写真選定と写真の印刷を夜遅くまで行い、準備をしました。」

朝、8時頃、大統領官邸に到着し、十五分ほど、近くの公園で待ち、その後、官邸の入口にて中に入るためのX線チェックとパスポートチェックを受け、全ての持ち物(写真機等)を預け、その後、大統領がゲストを迎える部屋に到着しました。

ルゴ大統領は8時半丁度到大統領の執務室から出て来られ、青年達と一人一人と握手、挨拶を交わし席に着かれました。

初めに、柴沼事務局長から国際青年奉仕隊の活動を昨日作ったファイルを見て頂きながら説明をしました。

特にチャコ地方を中心に奉仕活動をし、今年で十一回目となること、そしてチャコ地方のインディヒナ村を中心に活動し、レダ近郊の村に三つの学校を建て、植林活動をしてきた事に対し、大統領はとても熱心に聞いて下さっていました。

大統領はチャコ地方には大変、大きな関心を持っておられ、チャコの発展がパラグアイの今後の発展になると側近の方にパラグアイの地図を持って来させ、チャコの地域にカサドを出発とする水路を拓く予定であると話をしてくださりました。

丁度、地図を持って来て下さったので今、私達が拠点としているのはレダでそこで十二年前から活動をしていることを説明しました。

レダについては私達が開発を始める前に訪れたことがあり、その時は何もないところであったとの事も言われました。

その後、青年たちが一人一人、自己紹介をスペイン語で行いました。学生で何を勉強しているのか、仕事をしている青年は何の仕事をしているのかを紹介し、その時、ルゴ大統領は自分には日本人の妹がいて名前は上村(漢字は定かではない)と言いつても頭のいい広島生まれで心の良い方であると言われたことにとても驚きました。

その方はルゴ大統領の両親が養女としたそうです。話しながら心がとても打ち解けて来たようでした。大統領も終始にこやかでした。

(二Pに続く)



# 国際協力青年奉仕隊スケジュール

八月二十四日 成田出発 フランクフルト到着、観光

二十五日 アスンシヨン到着

二十六日 アスンシヨン出発

ローマプラタ到着 メノナイトの歴史

二十七日 ローマプラタ出発 オリンポ到着

二十八日 オリンポ市、

インディヒナ村にて植樹活動

二十九日、三十日

オリンポ市の市教育委員会、学校と農地開墾

三十一日 オリンポからレダにボートで出発  
レダ敷地内説明

九月 一日 レダにて釣り、乗馬、ヤシの樹を  
斧で倒す開拓体験等

二日 エスペランサ村 植樹、文化交流

三日 バスにてイタイブダム視察、  
アスンシヨンへ（飛行機）

四日 プレジデントフランコ市へ

世界遺産イグアスの滝訪問

五日 プレジデントフランコ市にて

植樹キャンペーン（五〇〇〇本）

六日 大統領官邸へ 大統領表敬訪問、

ABC新聞社へ活動報告 市内観光、

七日 パラグアイ出国 九日 成田 到着



インディヒナ村で植樹活動

オリンポ市での活動と文化交流

市の中高生と農地への野菜の植え付け



市長さんの歓迎を受ける

一Pからの続き

「青年奉仕隊は物質を援助することも重要ですがそれ以上に愛の種を人々の心に植え付けることにより、日本の青年もパラグアイの子供達も植え付けられた愛の種を育て、花を咲かせ、実をならせ、繁殖し、そこから相互の理解を深める事を念頭において活動し、過去十回参加した日本の青年は皆、パラグアイを愛しています」と報告をしました。

初めの約束が十五分との事でしたので既に十五分以上が過ぎましたので日本から持って来た高麗ニンジンと富士山の額を渡しながら大統領が最近、病気であると聞き、健康に良い韓国のお茶ですと渡しました。とても喜ばれておりました。そして、大統領に大統領が常々考えている座右の銘を記念に書いて下さいとお願いますと躊躇なく、「自分のモットーは平和を作る、世界平和を作ること、九月の終わりに国連で演説する文章を考えており、その中心テーマは平和である」と言われ、ノートに「平和を築くにはそれぞれのおかれた立場で平和を作りたいです事に尽力をつくすこと」と書いて下さいました。



その後、大統領は大統領執務室に全員を招き入れ、そこで記念写真を撮りました。



パラグアイ、チャコ地方は農業は殆んどされておらず、アルトパラグアイの州都であるオリンポ市においても初めて本格的な農地を日本からの青年奉仕隊が来る機会に共同して進めて行くことを市長はじめ市議会で決定しました。初めてパラグアイの農業技師が派遣され、青年奉仕隊が到着するまでに一ヘクタール（百m×百m）を整備することになっていました。南北米から困いのための棚と陽射しが強いいため、遮光ネットを作る費用を提供しました。

市の準備が十分でなかったため、隊員と現地の学生は農地の整備のため、農地に残っていた石と樹の根を取り除く作業からはじめ、その後、レタス、ピーマン、トマトなどの野菜の苗を植え付けました。これを契機にオリンポだけでなく、近隣のインディヒナの村にも野菜の生産が広がることを願って、活動を終えました。



第11回青年奉仕隊のため、準備した100ヘクタールの農地



レダは南北米開発財団が運営する開拓地であり、青年達が日本では味わえない自然に触れる機会を持つてもらいたいと写真にあるように色々な体験が出来るよう準備してくれました。青年達はヤシの木を斧で切ることの難しさに開拓の厳しさを少しでしたが体験出来たようです。また、大自然の中での釣り、乗馬など感動もひとしおでした。



レダでの活動、



パラグアイ東部地域、プレジデントフランコ市において日本のNPO地球の緑を守る会が5千本の苗木を50校に百本ずつ贈呈し、9月5日に市を上げて植樹のキャンペーンを行いました。市の関係者、学校の先生、生徒200名が集まりました。





二〇一一年九月七日付

## パラグアイABC新聞記事

### パラグアイ人の親切を評価

南北米福地開発財団に所属する日本の大学生のグループが、アルトパラグアイ県とアルトパラナ県の人々の親切さを評価した。今日、日本に帰る予定の十二人の青年達が昨日本社を訪問して二週間にわたる両地域での滞在の経験を語った。

青年達は赤白のパラグアイ代表のユニホームを皆着ていた。このアジアから来た青年達の目的は地域の人々に生活環境を大切にするに関心を持ってもらうことである。

同財団は十一年前から青年奉仕隊をパラグアイに送り、今年はフェルテ・オリンポ市(アルトパラグアイ県)で農地の開墾とプレジデンテ・フランコ市(アルトパラナ県)で植樹活動と文化交流を行った。

チャコ地方では最初三年間は学校建設に投入し続いて野菜畑などのプロジェクトなども進めてきた。

アルトパラナ県では二つの学校の生徒達と共同で植樹活動を進めて、五〇〇〇本の木を植えた。

小川文孝君はチャコ地方の人々の温かさを評価し家族間の温かい関係と笑顔強調した。彼はパラグアイでの経験が自分の人生に大きな変化をもたらすだろうと語った。中島理誉さんと大戸俊君も地域の人々に関して同様なことを語った。

また彼らはフェルテ・オリンポの特にパンタナールの自然の美しさと夜の星空のすばらしさを強調した。

学生達は思っていた以上にパラグアイが発展していることに驚いたと語った。

印象に残っているのはイグアスの滝です。イグアスの滝は世界三大瀑布の中でも川幅2.7km、36億リットル／分と世界最大の水量をもたらす光景に自然の偉大さ、神様の偉大さ、愛を感じてあまりの美しさに息を呑みました。イタイプーダムで一秒間に300万kℓが供給されると言う世界最大の発電量をもたらす光景をこの目で見て迫力が凄くて素晴らしかったです。(男性隊員より)



## 地球家族として

### 自然を守りましょう

#### 南北米福地開発協会

#### 会員の募集中

南米、パラグアイ、パンタナール地域へのエコツアー、ならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。

また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

#### 南北米福地開発協会 事務局

〒二一三一〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口二一十一十五

岩崎ビル四F

電話

〇四四一八二九一二八二二

Fax

八二九一二八二二〇

会費納入

郵便口座

一〇一八

〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

E-MAIL

office@asd-nsa.jp

ホームページ

<http://www.asd-nsa.jp>